

令和2年6月 南木曾町長所信表明演説

4月19日執行の町長選挙により、温かなご支援を頂く中で再び町政のかじ取りを担わせて頂くこととなりました。この重責を汚すことのないよう、心新たに気持ちを引締めて努めてまいり所存です。議会はじめ町民の皆さんと一緒に、南木曾町をもっと元気に出来るように取り組む決意ですので、ご指導ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

○ 予期せぬ敵を乗り越えて

新型コロナウイルスという予期せぬ難敵の出現に、社会は困惑し日常生活はじめ経済的にも大きな打撃を受ける事態となりました。この困難を乗り越えて行くためには叡智を結集して、ウィルスそのものに負けない防疫医療体制の強化と、この病原体と向き合うことができる新たな社会への変革が求められています。

南木曾町としましても一自治体としてだけでなく、議会や町民の皆さん、全国の関係者・関係機関とも歩調を合わせながら取り組んでいく覚悟です。町としては2月以降、感染予防対策を最優先として感染者を出さないための取り組みを進めて来ました。また改選期としては異例の5月臨時会で補正予算を認めて頂いて、経済対策にも手を打ち始めたところです。国県事業への対応をはじめ、町独自にも一定の行動制限効果と地域消費喚起をうながす商品券給付事業や、県の休業補償制度に必要な措置と対象外事業者へのフォローなどに取り組んでいるところですが、今後とも必要な対策をその都度、迅速かつ的確に取り組んでいくことが重要との認識であります。感染と拡大防止に向けては引き続き町民の皆さんのご協力が不可欠ですし、長期的な側面を覚悟すれば、議会においても時々の町内の様々な声や様子を届けて頂き、効果的な事業や対策についてのご審議を頂きたいようお願い申し上げます。

さて、コロナ問題以外に目を向けてみますと、南木曾町の最重要課題はなんと言っても人口減少対策にあります。町が発足した60年前には1万人程いた人口が、4,000人を辛うじて維持する状況となってしまいました。今年4月1日時点の人口は4,065人で、この1年間で46人減りました。私が1期目に就任した年とその前年は、年間の減少数が共に100人を超える状態でしたので、この数字だけを見ると減少に歯止めがかかりつつあるようにも見えますが、この程度の増減は長い期間で見れば珍しくないことです。本当にブレーキがかかっているかどうかは、人口の減少曲線がなだらかになって来たかどうかで判断することになります。社会人口研究所の予測通りとなれば、南木曾町も消滅可能性都市のひとつです。日本社会全体では人口減少は進むものの、南木曾町においての減少割合を予測よりも小さくするために、各種施策が結果として定住化や人口対策に結び付くように取り組んでいかななくてはなりません。

町の様々な施策が、流失を一人でも食い止めるための歯止めとなり、一人でも多くの人に住んでもらうためのきっかけとなれるかどうかで結果は異なってきます。「住みたい、住んでみたい」、「住んで良かった、暮らして良かった」と言える魅力ある町となるべく、4年間に取り組むべき諸課題や施策の方向性について述べさせていただきます。

○若者が「住みたい」と言える町に

町の子育て・教育への満足度が高まってきています。昨年度、地方創生戦略の2期計画策定に際して実施したアンケートからは、町の子育て・教育に対する取り組みについて、子育て世代の満足度が平均的に高まっているという結果が示されました。

これは先の4年間で、出産から子どもが18歳になるまでの長期間にわたって、ひとつひとつの事業は小さくても継続的な支援に取り組んできたことが評価されたものと受け止めています。不妊不育治療費の上乗せ補助に始まり、子育て応援給付金、乳児健診や親子歯科検診の拡充、保育園給食費無償化、入学祝品の贈呈、中3高3インフルエンザ予防注射無償接種、中学校学力検定補助など、この他にも小さいながらも幾つもの支援が継続的に行われています。今年度からも、議会からも要望のありました妊婦歯科検診を無償で始める準備を整えています。長期間にわたってその時々に必要な支援ができるように、今後とも子育て・教育支援に目を向けてまいります。

更にはもう少し下の世代、結婚したばかりの世帯や独身の若者に対しても、新婚さんや婚活をする若者などに具体的な応援を行っていくことで、町に住む全ての若い人に南木曾町を魅力的に感じて貰えるようにし、南木曾町に住みたい、住み続けようと思っ貰えるような取り組みを進めていきます。今回の商品券の若者・子どもへの上乗せ補助もその一環であり、若者・子育て世代への継続的な支援を人口減少対策、定住化推進策の重要施策と位置付けて取り組んでいきます。

懸案の保育園のあり方については、令和4年度には子ども園としての仕組みを取り入れて、保育に対する多様なニーズや教育改革の流れに適応していくための準備を進めていきます。移行にあたっては早い段階から具体的な園の姿を示して、様々な意見を聞きながらも保護者を中心とする関係者との協議を進めていきます。

放課後子ども教室については、今回のコロナ対応でも重要な役割を担っただけに、施設を充実させていくと共に、スタッフの確保とよりスムーズな運営方法についての検討を深めていきます。

少子化・長寿命化社会の到来で時代の局面が大きく変わり、先の見通しづらい時代になっています。そんな中を生き抜いていかねばならない若者や子ども達には、新たな環境に立ち向かっていく逞しさと適応していくための能力が必要となっています。学校教育のみならず家庭教育や社会教育とも連携して、これからの社会に適合していける元気で心豊かな「なぎのこ」(なぎその子の略)を育てていきます。また、町の将来を担ってもらふ「なぎのこ」には、町や身近なことに意見を言える機会を作ることで、子どもの頃から自分が住む地域を意識し、ふるさと南木曾への愛着と誇りが持てるような取り組みを進められたらと考えます。

小中学校においては、コロナ対策には遠隔授業が欠かせないことから、整備が急がれるICT教育や情報教育に必要な設備と環境の充実に向けて、児童生徒全員に端末機器が行き渡るよう準備を加速させていきます。また行政的な立場からも、引き続き学力向上に向けた支援が出来るように現場との連携を図っていきます。

「南木曾の給食はおいしい」と言われている食育では、これまで通り地元農産物の利用を含めた安全で安心な給食となる体制維持に努めていきます。

障がいを持っていたり支援が必要な子ども達に対しては、現在も早い段階から保健師や保育園・学校などが連携して対応を行っていますが、今後とも家庭と関係機関の連携を密にしながら、乳幼児期

から成人に至るまで継続的な支援体制の充実が図れるように包括的子育て支援センターの運用を行っていきます。木曾養護学校への通学支援については、保護者の声も聞きながら町として出来る支援を進めていきます。

蘇南高校の総合研究発表会が年を追うごとに充実したものとなっています。昨年度は県大会で蘇南高生が最優秀賞に輝き、全国大会の切符を手にするまでに至りました。地域の学校としての蘇南高校を、今後とも町独自の支援制度を継続しながら支えて、地域や地元企業に密着した人材育成と人材確保を図っていきます。

南木曾に住みたいけど家がない、土地が無いといった声に応えるべく住環境整備を進めて来ましたが、引き続き単身住宅の整備や空き家の活用などの対応を進めていきます。

現代の若者に不可欠な通信環境については、今年度中に広域ケーブルテレビの光化工事を完了させ、高速ブロードバンドやWifiの利用は勿論のこと、医療・福祉・教育・観光・防災などへの活用や、スマホやタブレットを活用した先進的な取り組みにチャレンジしていきたいと考えます。とりわけスマホ世代ともいえる若い世代には、機会を見つけてはスマホを活用した取り組みを推進していきます。

また今回のコロナ対応の一環として注目を浴びているリモートワークはじめサテライトオフィスといった勤務形態にも着目しながら、コワーキングスペースの整備などによる移住受入の間口を広げ、特に 2027 年中津川市・飯田市に開業予定のリニア駅を見越した準備にもつなげていきます。中津川市や郡内 6 町村の一層の連携を図りながら、在来線の接続強化や木曾方面への 2 次アクセスの整備、更には行動圏域拡大に繋がる国道 19 号の雨量規制区間の抜本的改良、木曾川右岸道路の早期供用開始、主要地方道の改良促進などにも取り組んでまいります。

リニア新幹線については、対策協議会を中心に積み重ねてきた生活や環境へのリスク削減交渉をより具体化させていくとともに、開通後を見据えながら、活用構想の中から岐阜県駅を中心とした現実的な方向性や行動目標を見出して、効果を最大限に活かすための取り組みを推進していきます。

以上のように、若者や若い世代にも魅力が感じられる施策により定住化を促していくと共に、子ども達も将来は故郷に住もう、或いは一度は出たとしても必ず戻って来ようと思えるような町づくりを目標に取り組んでまいります。

○「住んで良かった」と言える一人一人が健康で幸せになれる町に

人は誰しも健康で幸せな生活を望んでいます。一人一人の幸せな生活の土台となる健康づくりには、安心できる医療・福祉体制が欠かせません。残念ながら坂下病院は元年度から坂下診療所となり大幅な機能縮小となっていますが、こういった状況だからこそ尚更に町のお医者さんや歯医者さんを 町全体で支えて守っていくと共に、先生方にも協力いただきながら健康づくりの推進と、町の医療・福祉の進むべき方向を見出していかなければなりません。

また救急医療体制をより充実強化すべく、木曾病院や中津川市民病院との日頃からの連携体制を確かなものとしておくことと、いざという時のために、近年利用回数が増えているドクターヘリのためのヘリポート整備を進めていきます。

市民病院への通院バスなどの交通手段については、早い内に利用者実態アンケートを実施して動向を把握する中で必要な対応策を見つけていく考えでいます。

現在、町の国民健康保険の特定健診の受診率が 長野県内で2年続けて2番と言う好成績部門があります。これに合わせるかのように国保での一人当りの医療費も、かつては高い方の上位の常連だったのが、29年度は11番、30年度は37番、元年度は速報値で57番と県内の平均水準まで下がって来ています。これらの評価には長期的な検証が必要ですが、受診率向上と言う実績は、医療保健関係者の働きかけと町民の皆さんの健康に対する意識が確実に高まっていることの表れであることに間違いありません。こうした成果をこれからの施策に活かして一人一人の健康づくりを確実に推進し、今後とも町全体で連携し力をあわせながら諸課題に取り組んでいきます。

一方で、町の福祉の屋台骨ともいえる社会福祉協議会や木曾あすなろ荘では、人材不足や財源確保の厳しさから苦しい運営が続く状況となっています。町としても常に情報を共有しながら協力出来ることを見つけ、支えていくことが必要となっています。人生100年時代を迎えた中、生き生きと健康長寿で過ごせるように健康教室や運動教室、介護予防事業などを計画的に行っていくほか、介護する側支援する側にも目を配り、また障がい者に対する支援など、多様な支援ニーズに応えられるように各団体と協力しながら、身近で頼りがいのある福祉施策を推進していきます。

県が力を入れている自殺防止対策への取り組みを継続していく共に、交通安全や高齢者を犯罪から守るための事業を引き続き推進します。高齢者運転免許自主返納制度については、返納手続きが町交番など身近な場所で出来るように要請をおこなっていきます。

南木曾町は地形的な制約から上水道の普及率が他の自治体に比べて低い状況となっていますが、簡易水道に取り込める可能性がある場合は、給水軒数が少なくても積極的な対応を心がけていくとともに、小規模（こきぼ）簡易給水施設については、地区との話し合いを基本にしながら計画的な整備や修繕を進めていきます。また下水道や農業集落排水事業の加入促進と、浄化槽整備事業により整備率を向上させながら、快適な生活環境の確保に努めていきます。

一層のごみの減量を進めるために、分別の協力と資源再利用に向けた啓発活動を行っていきます。さらには自然環境やエネルギー問題などにも目を向けながら、CO2削減や地球温暖化防止に役立つ取り組みについて、意識を高めながら検討を深めていきます。

○誰もが「住むなら南木曾」と言える元気あふれる町に

町が元気になるために欠かせないのが、なんといっても地域経済の活性化とコミュニティの維持、人材の育成です。地域経済の活性化策のひとつとして、小さくても町内で経済が回る仕組みを作り出すことが重要です。今回のコロナ対策の一環として実施中の商品券給付事業も、感染拡大防止や経済的な支援に加えて、地域の中でお金が回ることを考慮したものです。6月10日時点で、商工会での換金状況は37店舗、約12,297千円とのこと。7月末の期限までには使い切って貰えるように周知を進めて効果を高めたいと思います。

妻籠分館建替えの準備が始まりました。どうせ作るなら南木曾の物を使って、南木曾の事業者が関わり、南木曾の人達が建てる仕組みを作り出さなくてはなりません。今回の事業がモデルケ

ースとなるよう、町内で経済を回すひとつの事例として確立させたいと考えています。

また他地域や町外との交流を活かしながら、町の力の足りない部分や小さな町だけでは賄えないところを、下流域や都市部の人達から力を貸して貰えるような関係を今後とも活かしていく考えです。長久手市や名城大学などとの協定をもとにした連携をはじめ、名古屋市との尾張藩連携事業、大同特殊鋼とのだいどうの森整備事業など、今後とも良い関係が築けるように交流を進めていきます。

森林環境譲与税の交付開始にともない、手入れの行き届かない山林の整備に向けて本格的な準備を進めると共に、地元町村の裁量に任される部分を林業の活性化や木工品の販路拡大などに繋がるよう木工・林業関係者とも連携を図りながら進めていきます。とりわけ譲与税の交付が前倒しされことで確実な成果を示す必要にも迫られていることから、今年度創設された広域連合森林整備推進室ともよく協議を諮って取り組んでいきます。ロクロ細工やヒノキ笠など伝統工芸品については、地域おこし協力隊も加ってブランド力に磨きをかけながら販路拡大と定着に努めていきます。

被害が増大する一方の有害鳥獣対策では、猟友会などの声に耳を傾けて支援体制の強化を図っていきます。農業においては JA との協力体制をもとに、遊休農地の利活用や特産品づくりを推奨するとともに、中山間地域等直接支払制度や多面的機能支払制度を継続して、農家支援と農村共同体の維持に努めていきます。

ふるさと納税制度を利用した町への寄付金がこの4年間で大きく増えました。田立のお茶を使った「お茶だにい〜」が一昨年発売されましたが、返礼品に登録の少ないこれら農産物を増やすなどの工夫した取り組みで利用者を増加させたいと考えます。また、寄付金の利用目的にコロナウィルス関連の項目をも追加して、善意の受入に対応してまいります。

コロナ禍で大きな打撃を被っている観光業、そしてインバウンド復興へ向けた取り組みについては、事態を見守りながらも必要な対応を進めていかねばなりません。この春に開業したばかりの一般社団法人南木曾町観光協会には、今こそ存在感を示せるように町としてもバックアップ体制を敷きながら、一緒になって観光業の建て直し策を見出せるように努めていきます。観光産業は宿泊、飲食、土産物、運輸、地場産品など幅広い分野に影響を持つ総合産業だけに、再生に向け町としても全力で支援に取り組んでまいります。

妻籠地区においては、本年度から実施される町並み環境整備事業を着実に進めると同時に、駐車場会計に頼りきりだった保存事業のあり方について、特に財源の確保と事業の進め方の見直し検討作業を早急に進めていきます。

人口減少が進む中で地域を維持していくためには、長年にわたって築き上げてきた コミュニティーや人の絆をもとにした活動や組織を活かしていくことが大切です。公民館活動はもとより、チャレンジクラブや健康マラソン大会、若者交流会議、なぎのこマルシェなどの活動を町としても支援をしていきます。また従来の行政組織や町関与の団体については、役員の選出方法などをはじめ、世帯数や構成人員の減少といった実情に沿う見直しや検討を進めます。

文化活動では伝統芸能の保存活動支援や、アーカイブ（記録保存）のための町内文化財、動植

物の調査や町史の編纂作業などを進めて、現在の歴史文化を記録としてとどめて後世へ伝えられるようにしていきます。

南木曾町の行政を担うにあたって、忘れてはならないのが防災への取り組みです。平成 26 年の梨子沢蛇抜け（なしざわじゃぬけ）災害の復興が進み、ようやく通常の生活が戻ってきたところですが、長年にわたって整備を進めてきた砂防・治山事業や、防災無線施設などのハード整備を一層向上させると共に、これまでの教訓やいざという時の心構えを怠らないように、防災訓練やハザードマップの配布などによるソフト面での対策にも力を入れて、個々の防災意識と地域防災力の向上を図っていきます。

また、木曾川の増水対策についても国県へ粘り強く要請を続け、早期の河川整備計画策定と、既存ダム治水機能対策の実現に向けて取り組んでいきます。同時に、国が進める防災減災対策に適応した整備事業が取り入れられるように、町としての国土強靱化計画を本年度中に策定していきます。

住民の皆さんや地域の声を聞かずして、町づくりは成り立ちません。話を聞くことは町政の基本とも言えます。直接顔を合わせる中で、町の状況や具体的な事業などをお知らせできるように、地域に出向いて行けたらと考えます。これまでもお気軽ミニ集会を実施してきていますが、開催実績が地区によって差があることや町政報告会も年々集まりが悪くなっている傾向からも、地域振興協議会とも相談する中でより工夫した取り組みに向けて協議を進めていきます。

職員の皆さんには、身近で・親しみのある町政（役場）とするために「住民の皆さんの話を聞く」、「地域に関わる」、「出来ることはすぐにやる」ことをお願いしたところです。また女性感覚を町づくりに活かすべく公的団体における女性登用や活躍の場を見出せるように努めていきます。今回のコロナウィルス対応でも活用した災害時緊急時を想定したタイムラインに基づく職員行動計画や、いざという時の業務継続計画についても、ことあるごとに見直しを行いながら、非常事態に対応できるリスクマネジメントに取り組んでまいります。

以上、南木曾町をもっと元気にするための各種施策の一端を申し述べました。

〇もっと元気な町となるために

今年は町政施行 60 年の節目の年です。人間でいえば還暦、赤いちゃんちゃんこを着る年です。還暦とは文字通り、干支の十干と十二支の組み合わせが 60 年で一巡することに由来するもので、2 回り目から新たな時代に入ったとも言えます。南木曾町にとっての 1 順目は、人が増え物が豊かになり、新しい道や建物がどんどん出来た時代だったと言えます。2 順目となるこれからの時代は、1 順目とは逆に人は減り、豊かさは形だけでは判断できない、それも個々によって異なる時代となっていくでしょう。とりわけ今は時代の変換点でもあり、例えるなら山を切り切り平坦もしくは下りにさしかかった時であり、その進み方自体も不安や戸惑いを感じながらのものとなっています。

しかしながら、どんな時代になろうとも私達の故郷がここにあることは変わらず、いつの時代にも住む者があり、暮らす者がいます。町にとって解決していかなければならない時々の課題は数多

くあります。その課題も一朝一夕に解決できるようなものではありませんが、と言って何もしないのであれば南木曾町は衰退の一途をたどるだけになってしまいます。そうならないためにも、今できることを、今やらなければならないことに取り組んで、一歩でも二歩でも前へ進むことが大切です。

この町に住む者が「住んで良かった、暮らして良かった、住むなら南木曾」だと胸を張って言える町にするために、皆さんと一緒に町づくりを進めていく決意です。故郷南木曾が元気になるための各種施策に、職員ともども精一杯取り組んでまいり所存です。そのことで地域が元気になり、町が元気になり、そしてここに住む人々が元気になる。南木曾町がもっともっと元気になれるよう、町も議会も町中の皆さんが同じ方向を向いて進んで行こうではありませんか。

与えられた4年間で誠心誠意努めてまいります。皆様のご支援、ご理解、ご協力を頂きますよう重ね重ねお願い申し上げ所信表明と致します。

「もっと南木曾を元気に」

どうぞ宜しくお願い致します。 ご清聴ありがとうございました。

(令和2年6月12日 南木曾町議会6月定例会)